

第 66 回全国社会教育研究大会茨城大会 参加報告

大会スローガン 彰往考来 ～人をつくり 人をつなぎ 地域をつくる 未来の社会教育
研究主題 誰一人として取り残さない社会を目指す社会教育のあり方
 ～子どもたちの健全な成長を支える～

《開催趣旨から抜粋》 地域において子どもの健全な成長を支援するために、世代や立ち場を超えたつながりを生み出し、子どもを取り巻く問題の解決に地域ぐるみで取り組んでいけるような社会教育のあり方について検討し、実践していくことが求められています。

記念講演 「あなたの知らない名字の世界～名字には隠れた日本文化がある～」 高信幸男 氏

現在 13 万の名字がある。外国人「なぜ、日本人はお互いの名字が読めないのですか？」 ①名字が生まれた時代と言葉が違うもの「台」（うてな）「土師」（はじ）など ②日本独自の文字「辻」（つじ）「袴」（かみしも）「坏」（あくつ） ③勝手に作ってしまったもの「十」（つなし）「一」（にのまえ）「幽谷」（かすや）「十七夜月」（かのう） 来年から戸籍にふりがなをふることになっている。

シンポジウム

ア) 外国ルーツの子に日本語ができるように支援する NPO 法人

日本語ができないために教育の機会(未来)が奪われてしまわないようにする。一人の市民であり、地域を担う人材であるという認識が大切である。

イ) 「大洗うみ・まちコミュニティスクール(CS)」を推進している教育委員会

町全体(小中各2校)のCSと地域学校協働本部がリードする地域、高専、海洋大学連携による「郷土を愛する児童の育成」「学校を核とした地域の活性化」に向け挑戦している。Win-Winの関係。児童生徒が数年後に協力者としての活躍を期待。

ウ) 母親を孤立させないための事業に取り組む NPO 法人

ママを守らないと子どもたちを守れない。(虐待の連鎖を断ち切る。)

「ママに寄り添う」理念に共感する子育て経験のあるスタッフによる家庭訪問子育て支援。

第 4 分科会 社会的包摂の実現

障害者の学びの支援における生涯学習講座の実際 ～行政と民間団体の協働を通して～

生涯学習講座において障害者利用がほとんどない。障害者への情報発信不足、講座内容の運営上の問題が要因。そこで、これまでの生涯学習講座のネイチャーゲームとウォーキングを行政も関わりながら民間団体主導で実施した。民間団体の持っているノウハウやネットワークにより、障害者向けのプログラムと地区住民の協力、地区施設の利用、中高生のボランティアが可能となった。障害者と協力者が交流し合うことができた。

困難を抱えて生きていく子どもと真ん中支援と子どもの第三の居場所の役割

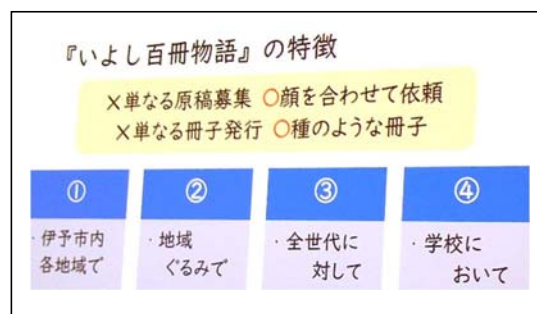
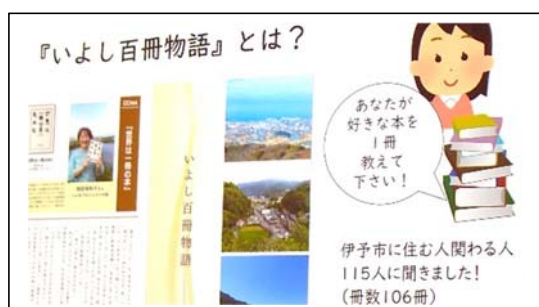
あらゆることに困窮している児童生徒に対して、生まれた環境に少しでも左右されないよう、生活環境、食事、生活、学習などの支援を通して、未来に向かって生きていけるようにサポートすることを目的としている。(学びも食事もできる子どもの居場所を開設)

- ・「電話相談」から「対面支援」へ (その子に必要な支援、雑談や活動から情報入手)
- ・未来の選択肢を狭める「体験格差」「経験格差」(夢や可能性を遠ざけ、無気力へ)
- ・貧困者のトンネリング(支援金(大金)を目の前のことに使い、さらに貧困に陥る)

* 両実践とも関係機関、行政との連携が課題としている。(意思疎通、担当者の姿勢 等)

第 1 分科会「地域と学校の連携・協働」報告

- 1 視点：地域と学校の連携協働を通して、地域全体で子どもの成長を支える取組について
 - 2 助言者 筑波大学准教授 丹間 康仁氏
 発表者 [愛媛県] 本で人をつなぎ地域に活力を生む冊子「いよし百冊物語」を発行
 いよし本プロジェクト代表 岡田 有利子氏
 [茨城県] 地域資源（自然・文化・歴史的価値遺産）を生かした地域活性化
 森と地域の調和を考える会代表 龍崎 眞一氏
 常陸大宮市立美和小学校教頭 徳増 香織氏
 - 3 発表内容（ここでは、愛媛県の取組を紹介します。）
- 愛媛県 本で人をつなぎ地域に活力を生む冊子「いよし百冊物語」を発行
 いよし本プロジェクト代表 岡田 有利子氏
- (1) 2019 年より、本に関わる活動を展開開始
 当初：私設図書館開設・古本交換会・交流会（紹介型読書会）
 - (2) 目的・本と人をつなぐ
 ・本を通して人と人をつなぐ
 - (3) 令和 5 年度～「いよし百冊物語」発行事業
 多くの人を巻き込む：「一般社団法人地域活性化センター令和 5 年度 地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業」「伊予市 令和 5 年度 地方創生に向けて『がんばる地域』応援事業」「伊予市教育委員会後援事業」としてスタート
 - (4) 主な事業内容・特徴：下画像参照



- (5) 事業の広がり
 - ・市長・教育長等、著名な方々から一般家庭の子どもまで、顔を出しての押し本の紹介
 - ・全小中学校からも紹介者多数。学校でも子どもたちの活動で図書委員会が自主的に「押し本活動」開始。115人の執筆者、20の機関・団体、13の小中学校で25のイベント
- (6) 発行後の広がり
 - ・お披露目会を各地で開催・寄稿の有無にかかわらず大交流会開催
 - ・市民の力で第2弾を出そうとクラウドファンディングで資金確保、執筆者の募集も早くに埋まり、2024年11月発行予定

4 省察

・本という小さな一つの石を池に投じることで、その波がどんどん広がり市全体を巻き込んだ事業に発展する。そんな取組でした。本というアナログなアイテムで、ここまで広がり、人々の心をつかむことに感銘を受けました。そして、これなら長岡市でも取組可能なのでは…とも感じました。初めの一步での各所を回っての代表の努力に頭が下がりました。

第66回全国社会教育研究大会茨城大会 第3分科会報告

テーマ「若者の主体的活動の促進」

視点 ; 若者（中高校生、大学生等）の地域活動への参画及び地域活動の担い手育成について

助言者 ; 茨城キリスト教大学兼任講師 池田幸也 氏

発表1 北海道 「人と人のつながりが生み出す場づくり」

発表者 厚真けん玉クラブ代表 斉藤 烈 氏

概要 北海道胆振東部地震以来、「人と人が平時からつながっている町」を模索。

→ けん玉をきっかけに、普段から人と人が弱く多様につながる町を目指す。

けん玉の上達が目的ではない。コラボ企画「+工作」「+カレー」「+除雪」で広範な人集め。

「+工作」; 何でもよい。完成しなくてもよい。お互いに取り組や現状のできを認め合う。

「+カレー」; 食べ物を介すると楽しさが倍増。

「+除雪」; 自発的に除雪を参加者全員で実施。依頼ではないので途中で気軽に作業終了。
成果－6年目を迎え、「あいさつプラスアルファの会話ができる人」が増加。

「けん玉」の手軽さから、町外の人や団体とのつながりも広がった。

課題－企画への参加者を増やすため、「当たり前から脱却した」活動内容の工夫が大切。

発表2 茨城県 「前に踏み出す力 ～様々な変化に柔軟に対応できる人材を目指して～」

発表者 水戸市教育委員会生涯学習課社会教育主事 石井 浩司 氏

水戸市サブリーダーズ会会長 金成 大智 氏

みと青年会会長 関山 瑠眺 氏

概要 様々な社会奉仕体験活動への参加を通じて、若者たちの主体的・能動的な活動を促す。

→ 行政の担当課が主導して市内各高校とつながり、若者の組織的な活動を後押しする。

① 高校生ボランティア市主催の事業に高校生ボランティアを募り、参加者へは進路に有効に作用する「活動証明書」を発行する。

② 水戸市サブリーダーズ会－高校生で組織するボランティア団体。50年の歴史がある。昨年度は小学生対象の「夏休み宿題お助け隊」や、中高生に自校の良さの見直しや、受験勉強の相談を受けたりする「中高生カフェ」等を実施。

③ みと青年会－市内在住の大学生や30歳以下の社会人で組織するボランティア団体。「魅力ある街づくり」を目的に、具体的な企画を自主的に考えて実施。昨年度は「偕楽園清掃活動」と「視覚障がい者との交流や支援活動」。

成果－行政機関からの依頼や支援があり、活動後に自己有用感や自己肯定感を得られた。

課題－継続的な働きかけと、多様な価値をもつ人や幅広い年代層との交流。

助言者より－高校生の会→青年会→地域活性化の中心的人材への好循環が素晴らしい。

若者の居場所でもあるIT空間をうまく活用してつながる工夫が大切。

今ある活動の枠に若者をはめ込むのではなく、企画・実施を任せて良さを評価する。

報告者の感想－「ゆるさ」・「自由さ」・「楽しさ」・「手応え」が若者の参加を促すキーワードか。

行政の社会教育主事の熱量と力量が大きな支えとなる。

どの発表からも、社会教育委員としての位置づけや役割はうかがえなかった。

長岡社会教育委員中之島視察から学んだこととこれから

2024.11.24

訪問日時：9月24日(火)10:00～11:45

1. 中之島コミュニティの「ウェルカムデイ」にかける思い

8地区の一体感や気軽に憩える場として
若者が気軽に集える場となり、地元中之島に愛着が持てる場として

【参考】 R5 長岡市地域課題解決支援補助金交付事業【中之島コミュニティ】

	地域の課題・補助事業の目的	補助事業の内容
①	<p>(課題) 8地区の一体感や気軽に憩える場の不足、公民館のコミセン移行を契機として、新たな地域コミュニティ形成を目指す。</p> <p>(目的) 地域住民の事業へ移行できるように意識づくり・仕組みづくりをする。</p>	<p>【中之島ウェルカムデイの開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春、秋計2回 ・従来のコミセン主体のコミセン祭りから、8地区の代表や旧地域委員会を引き継いだ若者、地域課題に関心がある者等で実行委員会を作り、様々な意見を反映した住民主体の継続的な事業に見直す。
②	<p>(課題) R元年成人式アンケートにおいて、気軽に集える場がない、働く場所が少ない、地元に戻ってくるか分からないなど、地元中之島に愛着を持っていない。</p> <p>(目的) 将来を担う10～20代をターゲットとして、若者の視点で地域の宝物を掘り起こし、中之島の魅力に触れる機会を増やすことで愛着を持てるようにする。</p>	<p>【中之島の魅力発信に関するワークショップ、講座の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中之島への愛着を持ってもらうための発信方法を探る。 ・地元10～20代の若者から参加してもらい、意見交換を実施。 ・今年度は検討の場として、次年度以降の取組を実施予定

2. 中之島コミュニティの『ウェルカムデイ開催の実践』を「市民協働による地域力を生かしたコミュニティ活動の推進」とする上で大切にしたい「【4つの学び】の窓」から覗いてみえた「学びと活動の好循環」

【4つの学び】

- 学び①：地域課題の把握と将来に描く景色の共有
 学び②：互いの考え大切にしよう話合い（活動意欲の高揚、力の結集）
 学び③：お互いを認め合い大切にしよう土壌
 学び④：自らの成長のために学ぶ機会や場づくり

ウェルカムデイの実践	学びと活動の好循環	4つの学び
<p>中学生や若者にアンケート実施</p> <p>若者会議の実施 3回</p>	<p>《現状把握》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手の若者をターゲットとしたアンケートや会議による若者の考えや思いを調査 ・若者会議に参加した若者相互の意見交流により地域についての思い共有(ファシリテーション) <p>* 市民協働センターのファシリテーター活用</p>	<p>学び① 学び② 学び③</p>

<p>年度当初のコミ組織の会議でウェルカムデイについて説明</p>	<p>《地域課題の共有》 会議の場で上記の課題と事業内容を説明し、協力依頼。</p>	<p>学び①</p>
<p>地域課題に関心のある者による実行委員会による 春のウェルカムデイについての企画会議</p>	<p>《話し合いによるスタッフの協働計画づくり》 ・ウェルカムデイにおける思いや願いを共有 ・自団体における主体的なブース協力 *ウェルカムデイがめざす姿に向かって、まずは自団体でできることから出発(やらされているのではなく、主体的な取組を大事にする) ⇒ 活動意欲(モチベーションの高揚)</p>	<p>学び② 学び③</p>
<p>春のウェルカムデイの開催</p>	<p>《スタッフ相互の協働による笑顔》 ・それぞれの団体が提供するブースの準備、当日の運営で生じる一体感(30のブース) ・スタッフの小学生が大人のスタッフから褒められることや、自分の役割を大人に混じって行うことができる自信を感じる 《スタッフと来場者の関りから生じる笑顔》 ・小学生が来場者に働きかけ、「ありがとう」と言葉を返す来場者のコミュニケーションがほほえましい。 ・ステージ発表でダンスを披露し拍手喝さいを浴びる出演者(そこに加わって参加している小学生や中学生)の満足感ある表情</p>	<p>学び③</p>
<p>地域課題に関心のある者による実行委員会による 夏のウェルカムデイの企画会議</p>	<p>《話し合いによるスタッフの協働計画づくり》 ・ビアガーデンに向けた話し合い ・ステージ発表で場を盛り上げる企画 ⇒ 活動意欲(モチベーションの高揚)</p>	<p>学び② 学び③</p>
<p>夏のウェルカムデイの開催 「ビールフェスタ」</p>	<p>《参加者の中の島愛を共に育む一時》 ・ビールを通して中之島の夜をともに楽しむ参加者相互の活発なコミュニケーション 《会を盛り上げる人々に対する労いの気持ち》 ・ステージ発表者に対する惜しめない拍手</p>	<p>学び③</p>
<p>地域課題に関心のある若者者の実行委員会による 秋のウェルカムデイの企画会議</p>	<p>《インスタのやり取りによる協働計画づくり》 ・インスタを通して事務局が若者の企業家や広く若者からの意見やアイデアを集約し企画。 *若者は忙しく会議に出席しがたい状況にあることからインスタやデジタルツールを活用) ・若者の企業家が知り合いに声をかけ出店拡大</p>	<p>学び②</p>

秋のウェルカムデイの開催	《出店者と参加者のやりとり》 ・若者の企業家がそれぞれの販売品のウリを紹介しながらの販売 ・体験型ブースではスタッフとのとのやりとり 《市の市民協働事業に関心を抱く若者》 協働マッチング事業を推進するスタッフのブースで興味深く話を聞く若者たち	学び③ 学び④
インスタグラムの活用拡大教室開催	《中之島のインスタにつながる人の増加》 現在のインスタ登録者数 151 名 ・インスタを活用する地区民の増加を願って「シニアのためのスマホ教室」の開催	学び④

3. 中之島コミュニティの取組から『3 世代を超えた交流と、市民協働による地域を生かしたコミュニティ活動の推進』（社会教育の基本方針）する上で見えてきた課題

- 予算（市からの少額の予算では賄いきれない）
 - ⇒ 地域住民による負担(受益者負担)を承諾いただくコンセンサスを充実させる必要がある。
- 市民協働への住民の意識のさらなる醸成
 - ⇒ 自らが市民協働の主役でありコミュニティ活動に参加いただける啓発活動が大切である。
- コミ組織の活性化
 - ⇒ 長岡市が目指す「自分たちでできることは自分たちで行う」という住民自治（住民主体のまちづくり）のために設置されているコミ組織がよりよく機能するように、市民協働課においては、これまで以上に、それぞれのコミュニティの状況に応じた関わりが必要である。
- 外国人や障害者の参加
 - ⇒ みんなが地域の協働を担うかけがえのない人材であるという意識の醸成を図るとともに機会や場づくりを進める必要がある。

4. 中之島コミュニティの取組から、社会教育委員として『3 世代を超えた交流と、市民協働による地域力を生かしたコミュニティ活動の推進』を見守るために、地域のコミュニティの活動を見取るためのチェックリスト☑

今回中之島コミュニティの取組を通して、「市民協働による地域力を生かしたコミュニティ活動の推進」に欠かせない「4つの学び」の実施状況をより見取りやすいように以下のようなチェックリスト☑に整理してみた。

☆ 地域のコミュニティ活動において、「学び」が機能しているかどうかを見取る
チェックリスト☑(案)

- ア 地域の現状を共有していますか。
- イ どのような将来の姿を描いていますか。また、それを共有していますか。
- ウ お互いの意見が尊重される話し合いを活用していますか。
- エ 話し合いを通して協働意欲が高まっていますか。(目標の共有、役割分担)
- オ スタッフ相互のモチベーション高く活動に取り組んでいますか。(スタッフ相互のコミュニケーション)
- カ 参加者がお互いに理解し合い、尊重し、協力し合い、励まし合い、助け合うなどの姿がありますか。
- キ 地域の課題を解決するために、または、活動を通して関心を持ったことに自ら学習する姿はありますか。 そのための講座や講演会などを開催していますか。

5 では、私たちは、自地域や所属団体において 『3 世代を超えた交流と、市民協働による地域力を生かしたコミュニティ活動の推進』 に対してどのように関わることができるのだろうか。上記の☑チェックリストを活用して、コミュニティの活動状況を見取り、関係機関に意見具申したり、自ら活動に関わったり、私たち自身ができることを考え行動していきましょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【参考】 本年度の私たちの自主研修

社会教育による学びを通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕し、地域において人々の関係を共感的・協調的なものにする事が期待されている。

【社教連会報第 94 号福岡県社会教育委員連絡協議会会長久保ひろみ氏の一文を引用】

ここで改めて、

私たちは、長岡市が看板に据えている市民協働による地域づくりを具現するための社会教育の基本方針の3「市民協働による地域力を生かしたコミュニティ活動の推進」には、地域住民の「つながり」や「かかわり」を育む社会教育による「学び」が重要であるととらえている。そこで、私たちは、この「学び」を具体的に「4つの学び」に整理し、その観点からそれぞれのコミュニティの取組を見取ることにした。そしてこの見取りから、自地域や所属団体で自分の役割や立場から、また、自分の特技・特性を生かしながらコミュニティの活動に参加し、社会教育委員として何ができるか、私たち自身ができることを考え行動していくことにした。

(2) グループワーク

やり方

- ① 1 ラウンドおおよそ 15 分で、リラックスした対話を楽しみます。
 - ・設定されたテーマに沿って、ホストから 1 人ずつ時計回りに話していきます。話す人は、目印にぬいぐるみを持ちながら話します。
 - ・話している内容は、一つ前に話し終わった人が模造紙に書き留めていきます。(最初の人の方は、最後に話す人が書きます。)
 - ・その他の人も、話を聞いてみてのアイデアや感想、イラストなどを、自由に、思いついた都度、模造紙に書いても OK です。
- ② ラウンド 1 が終わったらホストはテーブルに残り、それ以外の参加者は別のテーブルに自由に移ります。
残ったホストは自分のテーブルで話し合われた内容を新しいメンバーに簡単に説明し、ラウンド 1 と同様に進めていきます。(ラウンド 2)
- ③ ラウンド 2 が終わったら全員が最初のテーブルに戻り、別のテーブルで得られた気づきなどを共有します。
 - 【テーマ 1】ホストが自テーブルでの 2 ラウンド分の対話内容を、全体に向けて発表する。
 - 【テーマ 2】ラウンド 2 の対話内容を、グループ内で各自が発表し合う。



和やかな雰囲気の話し合い
(大分市の例)

模造紙の記述例



<参考資料>

大分市『都市計画合意形成ガイドライン
～住民主体のまちづくりの進め方～』内
資料 1 「話し合いのためのツール集」
[https://www.city.oita.oita.jp/o169/tosikeikakugo
uikeiseigaidorainn.html](https://www.city.oita.oita.jp/o169/tosikeikakugo/uikeiseigaidorainn.html)